

「〇〇らしさ」という人柄^{ひとがら}を認め合って

学校長 日暮 勤



今年の桜は早く満開を迎え、その花びらをどうにか残しつつ、新しい年度のスタートを飾ってくれています。朝から聞こえる鶯の声も春の便りを運んでくれています。また子どもたちの元気な声が帰ってきました。令和5年度の学校生活のスタートです。

さて、今年3月に開催された WBC は日本中の注目を集めました。中でも二刀流の大谷翔平選手の活躍は多くの子どもを夢中にし、憧れとなりました。

その大谷選手にまつわるエピソードを2つ紹介させてください。

一つは2021年7月に行われた大リーグのオールスター戦で見た、試合前の「ゴミ拾い」です。大谷選手はブルペンでの投球練習を終えてベンチに向かう際、グラブを外してグラウンドに落ちていたゴミを拾い、尻ポケットに収めました。この模様がテレビに映し出され、SNS で大きな話題となったそうです。もう一つは、ある試合でホームに戻ってきた大谷選手が、相手チームの捕手のキャッチャーマスクが転がっているのをみつけ、マスクについた土を払って渡してあげたことです。この光景を見たエンゼルスファンから「砂を払って相手プレーヤーに渡すなんてすごい男だ!」という声が上がったそうです。

どちらも野球のプレー中とはちがう何気ない1コマです。大谷選手は、そういった一連の行動を嫌味なく、さらりと行動しています。きっと幼い頃から野球だけではなく、普段の生活で行っている当たり前のことを、メジャーの舞台で行っただけなのでしょう。使っているグラウンドを思い、戦っていた相手への思いやり…これが「大谷選手らしさ」だと思います。

今、多くの子どもたちが大谷選手のようになりたいと思っているでしょう。その理由は優れた野球センスだけでなく、彼が彼らしく生きていながら見せる人柄への憧れにちがいません。

ベンチやグラウンドでゴミを拾うほど身の回りをきちんとしている姿、目の前にいる相手選手にリスペクトの精神をもって関わり合う姿、真剣に戦ってその熱い思いを大声の叫びとガッツポーズで表現する姿、全力で戦って手にした勝利を、仲間と抱き合い肩をたたきあって、笑顔で称え合う姿… それらの姿はすべて大谷選手の人柄を表しています。このようにその人柄にふれ、その出会いと共感から抱く夢や憧れは子どもの目標となります。その達成に向けて歩み続ける生き方は、その子どもの人柄である「〇〇らしさ」をつくっていくのです。

昨年度、瀬ヶ崎小学校でも温かい相手意識をもって、自然と相手のために行動する子どもの姿が何度も見られました。上級生の人柄は下級生の憧れになりました。大谷選手への憧れと同じように…

この春休みに、瀬ヶ崎小の子どもたちに、宿題を出しました。「どんな人になりたいか、どんな風に生きたいか、なりたい自分を見つけてください」「それを教えてください」と。子どもたちの憧れ、夢、尊敬、「あんな人に」という未来の自分を夢見る姿…教えてもらおうのを楽しみにしています。そして、それに向かって生きる姿を応援していきたいと思います。

この宿題を子どもたちが互いに伝え合えたら、その思いに共感したり、違いを認めあったりしながらその人の「〇〇らしさ」という人柄を認め合えるような、たくさんのつながりをつくるような気がしています。

保護者、地域の方々、関係機関の皆様、教職員…皆様とのつながりを基に、今年度も、豊かな教育活動をつくっていきたいと思います。2023年度(令和5)年度は新1年生42人と転入生を迎えての新たなスタートです。教職員一同、子どもが安心して、豊かに笑顔で過ごせる学校にしていきたいと思います。

どうか、変わらずご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

